

温排水対策事業リモートセンシング調査 — 抄録 —

伊藤 欣吾・桶坪 敏明[※]

発表誌名

平成4年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書（大間地点）、平成5年3月、青森県

抄 録

温排水の排出が予想される前面海域の水産資源の維持培養及び高度利用を図るため、その基礎となる水温分布及び底層の水質を把握する。

1. 水温分布

大間町奥戸漁業協同組合室内に昭和63年度に設置した気象衛星NOAAの画像受信装置から、表面水温分布情報を入手した。本年度は最新の軌道情報をより早く自動的に得られるよう、軌道情報受信装置（日本無線、NRD-525）を取り付けた。

平成4年2月から平成5年1月までに雲の影響を受けなかった鮮明な衛星画像データを67件入手した。平成元年度以降では最も多く、軌道情報受信装置の設置により増加したと考えられた。水温分布図から、対馬暖流が本州よりを通して津軽海峡を通った事、6月から9月上旬まで親潮沿岸水の津軽海峡への張り出しが弱かった事等を把握できた。本年度も地先のイカ漁期間（6～8月）中に、衛星画像の利用頻度が高かった。

2. 水質調査

本年度から奥戸地先水深14mの地点（N41° 28.5′、E 140° 53.9′）において、海底直上2mにメモリーバック式水質計（アレック社製、ACT-16K）を設置し、10分毎の水温と塩分データを収集した。

水質計を平成4年6月17日に設置し、平成4年10月8日に水質計を引き上げたところ、センサーにフジツボ類が付着していた。整備点検し平成4年12月1日に水質計を再度設置し、継続してデータを収集している。本年度は水質計を設置した初年度であり、データの検証を行った。平成4年7月22日にセンサーを掃除し、掃除前後のデータを比較したところ、水温値は変化しなかったが、塩分値は0.8減少した。水温値の信頼度は高いが、塩分値はセンサーに珪藻等が付着すると値が低くなるため、信頼度に疑問を生じる結果となった。平成5年度にはこれらの点に配慮した取りまとめを行う予定である。

※現在青森県水産増殖センター